

■発行／南方熊楠顕彰会 〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
 https://www.minakata.org/ 〈E-mail〉 minakata@mb.aikis.or.jp

自筆資料に見る南方熊楠…………… 27

南方熊楠筆「日高・鉛山記行」

文／南方熊楠研究会会長 武内 善信

1886(明治19)年、南方熊楠は脳の病で東京大学予備門を退学して、2月末に帰郷した。4月6日から5月4日まで、父の生家があり、親友羽山繁太郎のいる日高郡を訪れ、さらに羽山繁太郎と西牟婁郡鉛山(現、白浜町)に湯治に出かけている。同年12月に渡米するまで、熊楠は友人たちと交歓する日々を過ごしているが、なかでも日高には5回も訪れており、本史料は最初の旅で書いた日記風の紀行文である。この日高訪問に関しては、「日高郡記行」なる熊楠の文章があり、乾元社版『南方熊楠全集』第5巻や平凡社版『南方熊楠全集』第10巻に載っていることは周知のことであろう。これは、「江島記行」や「日光山記行」等とともに「紀行巻之一」と題した自筆本([自筆065])に記述しており、南方熊楠顕彰館に所蔵されている。

本史料は同じ旅行を綴ったものだが、全く異なる文章である。「日高郡記行」は前書があるが、羽山繁太郎と会う以前の4月9日の冒頭で途切れたままだ。これに対し、本史料には前書はなく、いきなり藤白峠から始まっているが、帰宅前の5月2日で中断しているものの、ほぼ全行程を記している。その意味で、熊楠自筆の本史料は貴重であり、紹介する意味は大きいといえよう。なお、熊楠はこの時初めて田辺の地に足を踏み入れている。

本史料は、筆者が和歌山市立博物館2009年秋季特別展「エコロジの先駆者 南方熊楠の世界」展を開催する際に収集したものである。熊楠が書いた「日高郡記行」という表題のものとは区別する意味で、特別展の際には「日高郡紀行」とのタイトルを付けて出陳したが、紛らわしかったのではと反省している。このため、本史料では鉛山旅行に関しても述べていることから、熊楠にならって「日高・鉛山記行」と命名することにしたい。現在この史料は、同じ和歌山市の施設である和歌山城西の丸の「わかやま歴史館」(南方熊楠のコーナーがあり、自筆史料を展示)の2階展示室で公開されている。ただし、表題は特別展の際のままである。

史料の形状は縦11.2cm、横15.7cmの帳面で、赤い罫線(片面15行)の入った和紙を袋綴じにし、茶色の表紙が付けられている。表紙を除くと43丁で、うち4丁は切り取られた跡が残っている。表紙の表には「日記帳／南方熊楠／所有物」と、裏表紙には「明治十八年十一月七日／東京大学にて／西村楠」(／は改行)と、熊楠以外の人物が記している。熊楠の末弟で母方の西村家を継いだ楠次郎が書いたものと考えてよい。熊楠が渡米した後、楠次郎が所持しており、熊楠の手元にはなかったようだ。中身の途中に「西村日記帳」とあり、少ないながら同じ筆跡のメモ書きがある。

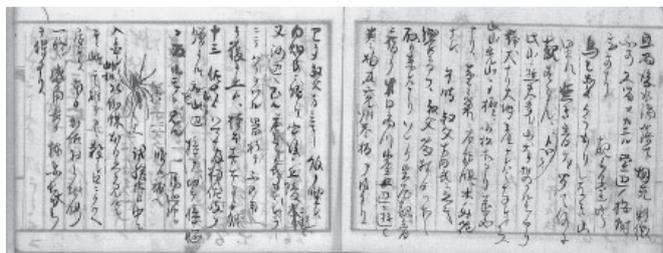
熊楠がまだ東京大学予備門に在学していた前年の「明治十八年十一月七日」に、この帳面を購入したのかもしれない。中身の1丁目の4分の3が切り取られており、年月日が分かることが書かれていたのではなかろうか。1丁目の残欠から判断すると、名前は確定できないが、1873(明治6)年に合衆国で死去した中国人の著者についての覚書を記している。次いで、幾何学の式や

植物と昆虫の学名のメモ、和歌山倶楽部発起人名簿の控えがあり、この後いきなりこの記行文となる。

熊楠は日高を訪れた際に、この帳面を持参したように思われる。というのは、道中各地の植物をメモ書きし、気になる動物や岩石・鉱物を、時には絵を添えて記載しているからだ。また、時々の出費も控えている。なかでも重要なのは、旅先で見つけた資料や書籍の抜書である。

熊楠の後半生との関係で先ず注目すべきは、「彗星夢雑誌」の文章を写していることだ。ペリーが来航した1853(嘉永6)年に出現したハレー彗星にちなんで命名された「彗星夢雑誌」は、羽山繁太郎の祖父である羽山大学(通称、維碩)が書き残した幕末・維新期の風説留で、全部で119冊(内2冊欠)もある。大正期以降、熊楠は随時借り受けて「田辺抜書」に筆写した。熊楠は既にこの旅で「彗星夢雑誌」を実見し、その重要性を認識していたのである。

本史料の翻刻は、日高郡関係の事項が多いので、同地の吉川壽洋氏に全面的な協力を仰いでおり、氏と連名で次号の『熊楠研究』に全文掲載する予定である。



「日高・鉛山記行」(和歌山市立博物館蔵)

CONTENTS

第12回南方熊楠ゼミナール基調講演 荒俣 宏	…2
講演 「(鼠)の抱えたフクザツな事情	…8
—「十二支考」(鼠)の原稿・草稿類— 一條 宣好	
講演 「熊楠の見た世界の(鼠)信仰	…10
—インドを中心に— ゴウランガチャラン プラダン	
講演 「南方熊楠の昔話研究	…12
—「鼠の嫁入り」を例として— 一條 宣好	
講演 「熊楠の見た鼠の文学」 伊藤 慎吾	…15
講演 「熊楠とネズミ」 土永 知子	…18
熊楠の「博物之学」 萩原 博光	…22
「熊楠」生物覚え書 ③ 土永 知子	…29
南方熊楠研究会 夏期例会報告 広川 英一郎 志村 真幸	…30
新資料紹介 土永 知子	…32
第57回 月例展のご案内	…33
南方熊楠と同級生たち 郷間 秀夫	…34
書簡の杜(二十三) 岸本 昌也	…36
書評・書籍紹介 伊藤 慎吾・志村 真幸	…38
〔追悼〕 川島昭夫先生 志村 真幸 横山 茂雄 安田 忠典	…40
中西 須美 坂元 正樹	
〔追悼〕 牧田健史先生 橋爪 博幸 岩淵 幸喜 松居 竜五	…42